

六甲カトリック教会報

2006.6 No.414

6月のお知らせ

	教会暦	教会行事
1 木	聖ユスチノ殉教者	
2 金		初金 7:00 10:00 ミサ
3 土	聖カロロ・ルワンガと同志殉教者	10:00 祈りの道場(ザビエル会) 15:00 ミサ
4 日	聖霊降臨の主日	
5 月	聖ボニファチオ司教殉教者	
9 金		婦人会遠足(彦根教会でミサ)
10 土		
11 日	三位一体の主日	13:30 典礼奉仕者の集い
13 火	聖アントニオ(パドバ)司祭教会博士	
18 日	キリストの聖体(両形態拝領)	13:30 典礼奉仕者の集い
19 月		14:00 三日月会 ミサと例会
21 水	聖アロイジオ・ゴンザガ修道者	
23 金	イエスのみ心(祭日)	7:00 10:00 ミサ(～15:00 聖体顕示)
24 土	洗礼者聖ヨハネの誕生	14:30 子供のミサ(イグナチオ会)
25 日	年間第12主日 聖ペトロ使徒座への献金	10:00 ブックフェアとミニバザー
26 月		11:00 ベビーとママの集い
28 水	聖イレネオ司教殉教者	
29 木	聖ペトロ聖パウロ使徒(祭日)	

自分はどんな人間だろうか？

(故遠藤周作氏の講演から)

今年は、カトリック作家として日本の教会に大きな貢献と示唆を残された遠藤周作氏の帰天10周年を迎えています。同氏は教会の内外で多くの人々に慕われ愛された方であり、周作クラブには今もファンが絶えないそうです。奥様が長崎市外海(そとめ)町に建てられた文学記念館は、殉教者が続出した紺碧の海からそそり立った丘の上、まさに著作『沈黙』の現場にあり、その記念館に近い「沈黙の碑」には彼の祈りとも嘆きとも思われる言葉が刻まれています。「人間がこんなに哀しいのに、主よ、海があまりに碧いのです」と。『沈黙』を読まれた方は、この意味がよくお分かりになることでしょう。もう20年以上前になりますが、同氏の講演を聞く機会がありました。開口一

番、「自分が“おばかさん”や“ぐうたら人生”等を書いているのは、出来る限り読者層を増やし、引いては聖書やキリスト教をテーマにした作品を読んでいただき、最後は教会に入らっしゃい！入らっしゃい！と誘うためですよ」と。そして、「自分を知る」という難しい課題をユーモアたっぷりに話されたのです。書く時も話す時も、同氏は人間の救いを求めて止まない信仰だったと思います。

「自分を知る」、こんな難しい課題は此の世に二つとはないでしょう。そもそも人間とは、自分にとって自分自身が謎である存在だからです。自分とは一体何者なのか？人間は理解し尽くすことが出来ません。しかもこの問いは、一回限りの

人生とは何？ 此の世とは何？ 神とは？ という永遠の課題にも繋がって行きますが、その探求と悟りのために生涯を捧げた哲学者や宗教家も少なくありません。しかし、遠藤氏の講演は私たち凡人にも分かるような、平易な内容でした。

即ち、まず私たちは自分の外面・内面を少しずつ知りながら成長して行きます。他者との出会いと交わりの中で、自分に備わっている親ゆずりの面、秀でている面、弱く劣っている面、性格や心理状態、感情の動きなどに気付き、大体自分はこのような人間だと知ることになります。そして歳とともに変化し成長して行く面もあるでしょう。

しかし、他人から“あなたはこのような人ですね”と指摘されることがあります。自分では気が付かなかった面であり、“そう言われれば、そうかな？”と受け入れたり、或いは“自分にそんな面はない”と反論する時もあるでしょう。家族や親友間では通常正しい指摘がなされますが、社会ではお世辞もあれば逆に過少評価を受けることもあります（経験者は語る！）。良きにつけ悪しきにつけ、自分の噂が伝わってくることもあるでしょう。いずれにしろ、他者にはそのように写っているのだろう・・・と自分の理解が広く深くなって行

きます。

ところが、まだ自分を知り尽くしたわけではなく、最後に棺桶の中に入った時にすべてを知ることになるでしょう。家族や友人達が涙ながらに棺に寄りかかり、私の顔をまじまじと眺めながら本音で言ってくれるからです。酒飲みだったな（苦労が多かったのだろう）気が小さいが正直者だったね、辛い病気によく耐えたな、気難しいところもあったけれど根は優しい人でしたな、大器晩成型だったな、楽しい人でした・・・等々。私の人生をねぎらいながら、異口同音に“ありがとう。是非またお会いしたい。待っててくれよな”と言ってくれる、それらの言葉の総和と前記の総合計が私なのです。私は棺桶の中で泣き笑いしながらも、確実に自分のすべてを知ることになるのだと。[私は講演を思い出しながら要旨を書いてみました。が不思議なことに、その奥には深い意味が隠されていたことに気付きました。棺桶に入って、やっと分かる。自分とは人間とは、愛されている者、救われる者なのだ！と。しかも、しかも・・・？]

桜井彦孝神父

各 部 会 だ よ り

婦人会

1) 掃除登録について

5月13日のトップ会で、婦人会の地区ごとの掃除はそのままで、金曜日9時以外の時間帯で募集してはどうかという意見が多く、以下の3つの時間帯で募集を行うことにいたしました。

金曜日 午後1時30分

土曜日 午前9時30分

日曜日 11時ミサ後

詳しくは、次のトップ会で再検討後
お知らせ致します。

2) 6月の聖堂掃除当番

2日(金) 中3・4

9日(金) 中5・東1

16日(金) 東2・3

23日(金) 東4・5

30日(金) 西1・2

いずれも9時からですが、9日は遠足の日ですので、当番の方で相談して日時をご検討下さい。

三日月会

6/19(月)14:00～ ミサ後例会
(典礼解説とビデオ)

青年会

< 定例会 >

6/11(日)12:30～14:00 第3会議室

内容：福音書を読んで分かち合い

6/25(日)12:30～14:00 第3会議室

内容：福音書を読んで分かち合い

和かな雰囲気の中で分かち合いをしています。
初めての方もお気軽にご参加下さい。

📖 典礼部

< 2006年の聖週間について >

・「復活祭の聖歌について、事前の練習が良かった。」との意見があり、今後奇数月の第4日曜日9時のミサと11時のミサの間に聖歌の練習をすることにしました。

・「過ぎ越しの3日間だけでなく、枝の主日と復活の主日を含めた典礼奉仕者の打合せを実施して欲しい。」との要望があり、来年より実施することにしました。

📖 社会活動部

・ 6月2日(金) 初金ミサ後 社会活動部連絡会
於：第2会議室

ブックフェア&ミニバザー、講演会等、討議事項が多数あります。関係者は必ず、又、興味をお持ちの方も是非覗いてみて下さい。

ブックフェア開催のお知らせ

6月25日(日)10時よりイグナチオホールに於きまして、例年通り開催致します。園田のパウロ書店より、シスター方が図書類の販売に来られます。それに合わせ、社会活動部でも教会内外の数グループに依るミニバザーを企画致しております。ミサの後、是非イグナチオホールにお立ち寄り下さい。そして、ご購入等のご協力を宜しくお願い申し上げます。

【典礼部からのお知らせ】

典礼奉仕者の募集について

朗読、先唱、祭壇奉仕、聖歌奉仕の典礼奉仕者の募集を行っています。ご希望の方は、申込書を提出し、下記の「典礼奉仕者の集い」に参加してください。

6/11 および 6/18 13:30~15:30

典礼奉仕者の集い(イグナチオホールにて)

典礼奉仕者または奉仕に参加ご希望の方は、いずれかの日(同じ内容)にご参加ください。

【社会活動部からのお知らせ】

6/7(水) 10:00~ 手芸の集い

(於：第1, 2会議室)

手作りのお好きな方、何方様も歓迎いたします。楽しみながらの奉仕活動に仲間入りなさいませんか?

6/10(土) 9:30~ 炊き出し

(於：教会台所)

準備出来次第、小野浜公園に移動致します。ご協力を宜しくお願い致します。

6/23(金) 14:00~ おにぎり作り

(於：教会台所)

須磨方面夜回り協力の為に作ります。ご協力をお願い致します。

6/25(日) 10:00~ 手作りコーナー

(於：イグナチオホール)

今月はブックフェアとミニバザーに合わせ、第4日曜日に変更させて頂きます。

~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~

## ボランティア募集のお知らせ

~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~・~~~~~

海星病院の新聖堂(11月完成予定)の当番をしてくださる
ボランティアを募集しています！

今までお世話下さったお二人のシスターは退職され、新聖堂の当番はこの秋から六甲教会の信徒でさせていただきますことになりました。

毎週日曜日 17 時のミサ、または集会祭儀のために、花、ホスティア、ぶどう酒の準備や、祭壇まわりの清掃などを手伝って下さる方を 8 名、4 チーム作りたと思っています。

「みんなで担う信徒奉仕職」の一端として何か手伝いをしたいと思っておられる方にはピッタリのお仕事です。ぜひ主任司祭までお申し出下さい。
(評議会議長 鈴木肇)

ミサ案内係のボランティアを募集しています！

何かボランティアをしたいとお考えの中の方、受洗・転入して日の浅い方、大歓迎です。

<係りの仕事>

- ・ 2 ヶ月に 1 回のお仕事です。
- ・ 9 時または 11 時のミサの 20 分前に開始。
- ・ 教会へ始めて来られた方へ「聖書と典礼」をお渡しして、聖堂へ案内します。
- ・ ミサ後の聖歌集やプリント等の後片付け

イグナチオホールに申込み用紙をおいておきます。どうぞよろしくお願い致します。
(赤木、北川)

《注》以上の二つの奉仕職は老若男女を問わず、広く信徒全体に呼びかけていますが、一応前者は壮年会に、後者は婦人会に、取りまとめをお願いする方向で議長団と話し合っています。正式には 7 月の小教区評議会で決定する予定です。
(主任司祭より)

「わたしは、わたしはあるという者である」

これはモーセに神が示されたご自身の名です。名前を示すことは、親密であることを示し、呼びかけることを許すことです。そしてその名前の意味は「自ら存在する方であり、存在の充満であり、初めも終わりもない方、この世の存在するものすべては、この神によっている」ということです。「神は真理であり、愛である」ことも意味します。第 4 回は、この難しい理論と格闘しました。

「カトリック教会のカテキズムを読む会」は、毎月第一日曜の 9 時のミサ後、開催しています。文字通り皆さんで読んでいます。ご都合がついたときに、お気軽に、ご参加ください。

(桐原康多)

初聖体・祝福式感想文

4月23日いつくしみの主日のごミサで新3年生10名の子供たちが初聖体と祝福に与りました。
この教会報に載せられなかったおともだちの感想文はJesus Kids 5月号に載っています。

ぼくは、さいしょきんちょうしました。それでしゅくふく式がおわった後はきんちょうはしなかったけど、しゅくふく式が楽しかったです。さいしょお母さんからしゅくふく式をうけるのときかれたのでそれってパンがもらえないのときくと わからないといったから ぼくはしゅくふくをうけるといいました。でもしゅくふくもよかったと家へ帰ったときに思いました。だからたのしかったです。ほんとにいいしゅくふく式だと思いました。ありがとうございました。 大輝

何もわからないところから始まり、リーダーやみなさんに助けていただいて、祝福式ができました事を感謝しております。これまで大輝にとって、教会学校は遊び場であった様子でしたが、この祝福式に向けて神様の事を学び1日錬成会も参加し、充実したものになってきたと感じます。初聖体・祝福式での子ども達の真摯な態度に感動しました。たくさんの方々に見守られているのだなと改めて気づかされました。まわりの方々への感謝の気持ちを忘れない様にと願っております。ありがとうございました。

美香（大輝母）

4月23日私は初聖体をうけました。2年生になって、神様のことご聖体のことを教えてもらいました。けれどまだ、よく分かりませんでした。でも、3年生になってみんなで準備をして、仲良しになって少しわかってきて、初聖体を受けたときは、とても嬉しい気持ちになりました。 マリア有里子

3月のはじめでしたか「おばあちゃん、ご聖体ってどんなん？」と聞かれ、「イエスさまの・・・」と言いかけると、「それは分かってる！味の事・・・」と言う始末。どこまで分かって初聖体を受けられるか心配でしたが、神父様、リーダー方そしてお友達に支えられて、一生に一度のよき日を迎えました。ただ、ただ感謝いたしております。 マリア・イマクラタ庸子（有里子祖母）

ミサの時に、一番うれしかったことは、ごせい体をいただいたことです。また、かなしかったのは、へんじをする時に声がかずれて出なかったことです。はずかしかったのは、入場する時でした。なぜかという、みんなにじろじろ見られたからです。

パーティーのはじめに、わたしは代ひょうで、うれしかったことと、これからどうするかを言いました。とってもドキドキしました。

パーティーは、とても楽しかったです。パーティーの後はビンゴゲームをしました。わたしはビンゴになって、商品がもらえました。うれしかったです。今日はとても楽しかったです。この日をわすれないうで、これからもイエスさまのことを、もっとしりたいです。 マリア・ヘレナ屈

決して従順ではなかったであろう子供たちを、根気よく初聖体・祝福式へとお導き下さいました教会学校の皆様に深く感謝申し上げます。ともすると、損得、勝ち負けという貧しい価値判断に振り回されてしまうこの時代に、神様を常を感じる事ができる人はとてもとても豊かで素晴らしい世界に生きていると思います。

子供たちが初聖体・祝福式を経験し、さらに神様を身近に感じるにより、高い志と強い心を持つ人へと成長してくれることを願います。また、日々の生活に追われております私に、落ち着いて神様について考える機会を与えて頂いたことを感謝申し上げます。これからさらに深く神様について考えることができますようにご指導賜りますようお願い申し上げます。 マリア・エリザベート尚子（屈母）

はつせいたいひのペンきょうをして、ごせいたいひをうけて、神様に近づけた気がします。

しきは、きんちょうしたけど、がんばりました。

みんなで、はつせいたいをうけられて、うれしかったです。

マリア・ミカエラ菜摘

神父様、リーダー方にたくさんの事を教えていただき、初聖体を受けることができました。ありがとうございます。小さな頃、いつもご聖体をいただいた私の口の中をのぞこうとしていた娘は、自分でご聖体をいただく時を心待ちにしていました。味は期待していたものではなかったようですが……。仲の良いお友達とみんなで受けられた事も大きな喜びのようです。この喜びをずっと忘れずにいてほしいと思います。

マリア・アスンタ雅子（菜摘母）



ずっと楽しみにしていた初聖体がやっと来ました。そして初めて白いパンが食べれました。その味はなんにもなかったけど「これで心の中にイエス様 神様が入ったんだなぁ～」って思いました。

クララ窓花

小学3年生の娘が今年六甲教会で初聖体を受けることができ、心から感謝しております。初聖体を受ける当日までの長い時間を使っての勉強。とてもとても楽しそうで、リーダーの方々や神父様、関係者の皆様のご協力があったので本日であることをつくづくと感じます。

初めてのご聖体を頂いた日の感激を忘れることなく思いやりをもって、人の心のわかる女性に成長してほしいと心から祈っております。支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

テレジア麻衣（窓花母）

ぼくは、初聖体でイエス様の体をいただけてとてもうれしかったです。ぼくは、ぼくをいれて10人の友だちと初聖体・祝福式をできて、すごくうれしかったです。

ぼくは、ミサの中で第二朗読もしたので、みんなより一つおおくがんばりました。朗読はとてもきんちょうしました。「かまないかな？ まちがえないかな？」と、とてもきんちょうしました。ちょっとだけまちがえたけど、うまく言えました。とてもうれしかったです。

そしてこんなに初聖体・祝福式をいわえてとてもよかったです。

アシジのフランシスコ佳祐

生後2ヶ月で洗礼を授けていただき、そして今8才で初聖体を。親として子供の成長の喜びと、ご指導して下さったリーダーの皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

教会学校で過ごす時間の中で、神様に寄せる素直な心を育むことができました。これからもリーダーの皆様とお友達に囲まれて楽しみながら、ますます心豊かに成長していったほしいと願うばかりです。

マリアカロコ悦子（佳祐母）

親睦会報告（4月23日）

「どうぞよろしくお願いいたします」

『ウィズ クライスト～新しい友達と出会おう!～』というテーマで初聖体・祝福式、親睦会が4月23日、ザビエルホールで和やかな余韻を残して終わりました。

御復活祭に受洗された方々16名、初聖体8名、祝福2名を迎え、六甲教会に新たなつながりが増えました。男の子達は白い衣で清々しく、女の子達は、お母様方の手作りの清らかな花飾りを頭に、愛らしく、教会の共同体に若い命が吹き込まれました。受洗されて、初めての集まりに参加された皆様、大勢の多士済々に囲まれ、いかがでしたでしょうか。今までの自分の殻を破り、新しく神の世界に向かって、自分を開いていくことは、ワクワクドキドキではありますが、固さを捨てるチャレンジの先には、明るい自由な世界が待っています。

お母様方の愛の一杯こもったホームメイドケーキもたくさん加わったお食事は、**完食!** 健やかな命が健康な身体に宿っている **感触** をしっかり感じました。「キリストと共に」生まれた温かい連帯感は **感じよく**、青年会 **幹事よく** 準備された名進形で、お祝いは心弾むものでした。

さらに豊かになった共同体の営みの中で、私達の心が神に、隣人に、そして自分自身にも、より自由に解放されていきますように御祈りしてきたいと思います。
(婦人会 塚崎みち子)



中高生会練成会に参加して

津和野での初めての練成会では、殉教者のことを知ったり、ふだんしない体験を通して信仰心というものについて考えることができました。また、観光も楽しかったです。この練成会で感じたことを忘れず、日々の生活の中に活かしていきたいです。

隆志

大阪教区生涯養成コースの研修会(5/3～5)に参加して

●『新しい福音宣教に取り組む』というテーマで2泊3日を過ごしました。このような研修会に参加するのは初めてでしたが、いろんな地域から幅広い年齢層の方々が参加されていました。『新しい福音宣教に取り組む』と書かれていて、始めはそんな難しいことできないな。と思っていましたが、いろんなプログラムをこなすうちに、大きなことではなく、小さなことから始めていけたらいいんだなと思い始めました。全く関係ないようなことに見えても、実はどこかでキリストとつながっているんだな。と感じました。まだまだ認識不足なところも自分で分かり、もっと自分もキリスト教について深めていきたいなと思いました。この研修会を通して、今のカトリック教会の現状や、いろんな視点からキリスト教を改めて見つめ直すよい機会となりました。このようなよい機会を与えてくださった神様や皆様に感謝します。

浅野真来

●初めて生涯養成コースに参加させていただきました。『新しい福音宣教』について、3日間他の教会の方々と考えながら分かち合えたのは、とても貴重な経験となりました。イエス様からの思いを受け止めて、共に生きていくことの大切さを強く感じました。

黒森香織

●ゴールデンウィークの3日間、生涯養成コースに参加してきました。テーマは“新しい福音宣教に取り組む”。私は当日までテーマについて何も考えが及ばないまま初参加させて頂いたので内心少し緊張していました。しかし、新しい福音宣教について様々な角度から考え、分かち合い、黙想し、そしてまた分かち合う、というプログラムを通して、いつの間にかとても気持ちよく過ごしている

自分に気づきました。初めの緊張は、今まで考えた事の無かったテーマであった事やこのような他教会のしかも自分の親世代の人達と分かち合う事が初めてだった事への新鮮な喜び、また主催者の方が初めに言われていた「分かち合いの基本は相手の話を聴くこと」という言葉が自然と自分の中に入り、聴く耳を持つ事ができた事への感謝へと変わっていました。

“新しい福音宣教”。それは響き自体が新しく、何か新しい事を始めよう、始めなきゃ、という気持ちになります。でもそんな気持ちになった時ほど、自分の中に静かに立ち返らなければいけない、ということに気づかされました。普段、忙しい生活の中で、自分の思いや新しいイメージやしなければいけない事に心をとらわれ、祈ることを怠りがちでした。この3日間、久々に静かに過ごさせて頂いたことで、祈ることの大切さ、またそれが外へ向かう時の新しい力になるということを改めて感じました。そして「私達に与えられた使命は、イエス様の苦しみや葛藤という使命を経て伝えられた」そう実感できた時、言葉では表し難い感情が湧き上がってきました。社会の中の教会、共同体としての使命、新しい福音宣教、その役割、方法は？考えなければいけない事は広く大きく、私には難しいことばかりですが、どうかこの3日間を感じた事を根底に据え、祈りのうちに歩むことができますように。

このような機会を与えて下さった事、たくさんの新しい出会い、そして3日間快晴であった事、それによって神様に温かく包まれていると実感できた事、いろんな事に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。 前田麻美

春の教会大掃除(5月6日)

40名以上の参加をえて、早く丁寧に出来ました。ありがとうございました。いつもこのくらいの人数的お手伝いがあると嬉しいです。

評議会議長 鈴木 肇



『お茶とミサ』

ピーター・ミルワード著 / 森内薫、別宮貞徳訳
P H P 研究所

日本の茶道とミサ。私達にとって、全く異質であるこの2つに深いつながりなどあるのだろうか、お考えではありませんか？私は去年からある信者の方の紹介でお茶を習い始めたのですが、その時におけいこの途中で、先生がお茶とミサの関係について触れられました。本当に関係があるのだろうかと思った時に、図書室で見つけたのがこの本でした。

ミサと西洋人から見た日本の茶道、そしてミルワード神父の母国のアフタヌーン・ティーの歴史や時代背景を織りまぜながら、この3つの深い関わりについて述べられています。お茶とミサには偶然とは思えないほどの共通点があり、著者は茶道の創始者利休が隠れキリシタンであったとまで主張している。決定的な証拠がないにしても、本を読んでいると「そうかもしれない。」と感じてしまうのは私だけではないと思います。

アフタヌーン・ティーについては、著者の子供の頃の思い出が書かれていて、その当時の温かい家庭の雰囲気伝わってきます。ここでは、ホステスである母親の役割の重要性について述べられています。お茶を飲みながら、親子での会話を楽しむゆったりとした時間。今の忙しい日本の家庭に、一番足りない時間ではないでしょうか。

ミサ・茶道・アフタヌーン・ティーに共通するのは、その場での「親しき交わり」を大切にしていることです。「親しき交わり」こそが究極の目的であると、著者も述べています。皆さん、少し手を止めて、お茶を飲んでゆっくり語り合いませんか？そんな著者からの呼びかけが聞こえてくるような本でした。

(黒森香織)

| | |
|---|--|
| <p>教会報月7月号の発行は、7月2日(日)です。
編集会議は6月25日(日)です。
記事原稿は、6月18日(日)正午までに信徒会館事務室へ
ご提出願います。(広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p> | <p>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6</p> <p>発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父</p> <p>編 集 広 報 部</p> |
|---|--|